

日本政府拠出 ガンビア EIIP プロジェクト 「若者雇用の創出による持続可能な平和構築」



<EIIP: Employment Intensive Investment Programme 雇用集約型投資プログラム>

雇用機会の最大化と現地のリソース(資金・資源)の活用を目的としたILOの投資手法のひとつで、インフラ開発を、雇用創出、貧困削減、現地の経済・社会開発と結びつけることで、必要な雇用、収入、コスト削減、外貨貯蓄をもたらし、地域産業振興を支援し、国の能力強化を行います。

<プロジェクトについて>

1. プロジェクト全体の目的

プロジェクトは、道路インフラ開発の分野で若者の雇用機会を創出し、地域経済の循環にも寄与することを目的としています。インフラ開発を通じた雇用創出は、「ディーセント・ワーク」の国際的基準に則り、同国の主要な経済セクターの活性化をもたらすと予想されます。さらに、日本のNGO「道普請人(CORE)」とのパートナーシップを通じて、日本の「土のう」技術を導入し、現地資源を活用した道路インフラ整備を行っており、若年雇用とスキル開発、中小企業開発を重視した労働集約型技術の開発を通じて雇用を促進することが期待されます。



3. 現在のプロジェクト状況と今後の展望

首都バンジュールから東へ250kmほどの場所に位置するサミ・カラントバでは現在、地域コミュニティの農業活動支援のための「混合農業センター」施設の再建作業が行われています。同事業に参加する現地の若者たちは、雇用機会と収入を得るだけでなく、結果として同センターによる農業トレーニングの恩恵も受けることとなります。農業センターは農業学校の役割を担い、現地コミュニティは新たな農業技術や好事例を学び、その技術を自身が所有する農地で実践することで、野菜や穀物生産の生産性向上を通じた生活水準の向上が期待されています。

<概要>

長く専制政治が続いたガンビアでは、2016年のエボラ出血熱危機により一人当たり国内総生産(GDP)成長率がマイナス0.84%に落ち込みました。2017年の失業率は29.8%に達し、女性と若年層の失業率はそれぞれ38.6%、43.9%を記録しました。

日本政府の支援を受けて、ILOは帰還民や女性に焦点をあてた若年雇用創出プロジェクトを2018年に開始しました。地元のリソースを活用したインフラ建設、エンプロイアビリティ(就業能力)育成、起業家支援を通じて、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進することで、社会の安定化と持続的な平和構築をめざします。



2. プロジェクト内容

A. 労働安全衛生に関する意識の向上

プロジェクト開始時に、ガンビア雇用省、ガンビア商工会議所との協力のもと、建設業における労働安全衛生に関する3日間の理論・実践トレーニングを実施したほか、55名に対してILOの「WISCONツール(小規模建設事業における労働環境改善ツール)」を用いて講師養成訓練を実施し、ディーセント・ワークの必要要件に関する知識の共有を行いました。トレーニングを受けた55名はその知識を用いて、実際のプロジェクト実施現場であるコツとグンジュールの労働者に対し、講師として労働安全衛生に関するトレーニングを実施しました。トレーニングを通じて、参加した労働者たちは、その他のセクターよりも高いリスクを担う建設現場における労働安全衛生の重要性を認識することができました。

B. コツにおけるプロムナード・ロードの建設と補修(観光業)

雇用された125名の男女は、約1.2km続くプロムナード・ロードの建設と補修を完了しました。これら125名の若者の内、62名は女性、30名は元経済移民、10名は聴覚障害のある若者でした。若者に対しては、さらに起業スキル・トレーニングも実施し、ビジネス・スタートアップに関する知識も共有されました。その結果、98名の若者たちが集まり、生活道路の整備・維持管理会社が設立されました。同社は「Community Road Development Maintenance (CODEM)」として登録され、プロジェクトを通じて習得した技術・経験を示すことによって政府や民間セクター等との契約の獲得をめざしています。

<成果>

プロジェクトを通じて雇用された若者は、「求職者」から「雇用創出者」へと変貌を遂げました。同プロジェクトを通じて建設・補修された首都圏の道路はホテル等に囲まれた観光地の中心に位置し、訪れる観光客は現在、その道路を通過するだけでなく、バードウォッチングやサイクリング、ジョギングなどを楽しんでいます。特に首都バンジュール周辺地域における観光活動が同国の大きな財源となっていることから、こうした観光客のアクセシビリティの改善による経済インパクトは大きいと考えられます。

C. グンジュールにおける漁港アクセス道路の建設と補修(漁業)

首都バンジュールから約50km南西に位置するグンジュールの2.5kmの道路が、同地域に住む125名の若者によって建設・補修されました。

<成果>

グンジュールでもジェンダー平等の機会創出を重視した結果、過半数を超える65名の女性が雇用されました。建設・補修された漁港へ通じる道路の存在により、漁業や魚の燻製、あるいは野菜園芸といった様々な経済活動が行われる漁港・市場への商人のアクセスが大きく改善されました。雨季の期間中でも自動車による漁港・市場へのアクセスも可能となり、現在では地域住民に広く利用されているこの道路は、ガンビア内外の貿易を通じた地域経済の活性化につながっています。

- ガンビア共和国 基礎知識 -

出典: 外務省ガンビア共和国基礎データ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/gambia/index.html>



首都: バンジュール(Banjul)
面積: 11,300平方キロメートル(ほぼ岐阜県の面積)
人口: 約210万人(2017年: 世銀)
民族: マンディンゴ、フラ、ウォロフ、ジョラ、セラフリ等
言語: 英語(公用語)、マンディンゴ語、ウォロフ語、フラ語など
宗教: イスラム教(90%)、キリスト教・伝統宗教(10%)
政体: 共和制
略史: 1965年英国より独立し、1970年「ガンビア共和国」樹立。2016年にバロウ政権が樹立し現在に至る。
経済概況: 一人当たり国民総所得は680米ドル(2017年)。農業や観光業を主要産業としている。バロウ新政権の誕生を受けて、経済成長率は回復傾向にある。